



## JSPSボン研究連絡センター 2010年度第2四半期活動報告 (2010年7月～9月)

### < 目次 >

1 2010年7～9月の主な活動	…p 1
2 会議、イベントへの出席、当センターへの来訪者等一覧	…p 6
3 2010年10月以降の予定	…p 8
4 対応機関幹部の交代	…p 8
5 センター長雑感	…p 9

## 1 2010年7～9月の主な活動

### ①日独6大学長会議に出席

日時: 2010年7月29日～30日

場所: ハイデルベルク大学(ハイデルベルク市)

この会議はハイデルベルク大学の呼びかけにより、日本側 京都大学、大阪大学、東北大学、ドイツ側 ハイデルベルク大学、ゲッティンゲン大学、カールスルーエ工科大学の日独6大学の学術研究における強固なネットワーク作りを目的として開催された。本会議には6大学の学長をはじめ 100名程度が出席し、JSPS ボンセンターからは小平センター長が出席した。

会議2日目の後半では小平センター長の司会により、当面の協力連携体制についての取りまとめが行われた。

最後に、神余隆博在独日本国大使立会いの下に6学長が「共同声明」に署名し、これまでの良好な日独二国間関係を考慮し、自由な知識の交流によってしか地球規模の問題解決はできないとの認識を共有し、今後の協力関係を約して閉会した。

< 関連 URL >

[http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news\\_data/h/h1/news7/2010/100730\\_1.htm](http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news_data/h/h1/news7/2010/100730_1.htm)

[http://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/topics/2010/08/20100817\\_01](http://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/topics/2010/08/20100817_01)

<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/2010/08/news20100810-01.html>

## ②ブラウンシュヴァイク工科大学-静岡大学ダブルディグリープログラム調印式、第2回独日シンポジウム に出席

日時: 8月30日～31日

場所: ブラウンシュヴァイク工科大学(ブラウンシュヴァイク市)

静岡大学とブラウンシュヴァイク工科大学がこれまでの交流実績を基にダブルディグリープログラムを実施することになり、その調印式とシンポジウムに JSPS ボンセンターから小平センター長と佐々木国際協力員が出席した。静岡大学とブラウンシュヴァイク工科大学から教職員、学生を合わせ、それぞれ20名程度が参加した。

ブラウンシュヴァイク工科大学食品化学研究所 Winterhalter 教授が1996年から静岡大学創造科学技術研究部 渡辺修治教授と共同研究を行い、また1999年から2001年にかけて、ブラウンシュヴァイク工科大学の Fleischmann 博士が静岡大学の渡辺研究室においてポスドクとして研究したことなどから、相互の大学間交流に発展し、2009年4月には大学間の交流協定を締結した。今回、第2回の合同シンポジウムにおいて、相互の大学間でのダブルディグリープログラムの調印式がテレビ会議システムを使って行われた。

シンポジウムの席上で、小平センター長が JSPS の事業説明を行い、日独共同大学院プログラム等、主に両大学の今後の交流に役立つと見込まれるプログラムについて紹介した。また、JSPS ドイツ同窓会員であるブラウンシュヴァイク工科大学半導体技術研究所 Schlachetzki 教授が日本での研究についての自身の経験と JSPS ドイツ同窓会の紹介を行った。

< 関連 URL >

<http://www.shizuoka.ac.jp/info/20100907.html>

## ③アーヘン工科大学-大阪大学日独共同大学院プログラム開設シンポジウムに出席

日時: 9月6日

場所: アーヘン工科大学(アーヘン市)

アーヘン工科大学にて同大学数理情報自然科学研究科と大阪大学大学院工学研究科による共同大学院プログラム設置に伴うシンポジウムが開催され、JSPS ボンセンターからは、小平センター長、齋藤国際協力員が出席した。

このプログラムは JSPS の「日独共同大学院プログラム」の採択を受けて今年度より開始されたもので、環境調和を指向した生物および化学プロセスの開発と人材育成を目標としている。当日はノーベル化学賞受賞者である米マサチューセッツ工科大学の Richard R. Schrock 教授らによる基調講演に続いて当プログラムのコーディネーターを務める大阪大学工学研究科 大竹久夫教授、アーヘン工科大学数理情報自然科学研究科 奥田純教授のほか日独双方の教員による講演が行われ、両国に派遣予定の大学院生も多数参加した。



両大学への期待を述べる小平センター長

シンポジウムに先立ちアーヘン工科大学長が挨拶をし、在デュッセルドルフ日本国総領事館 小井沼紀芳総領事、当プログラムのドイツ側協力機関である DFG (ドイツ研究協会) の Glanderath 博士に続き、小平センター長が挨拶に立ち、両大学への期待と、自身の経験を踏まえた海外での研究滞在の心構え等を述べた。

両大学共催によるシンポジウムは今回で 3 回目を数えるとのことで、シンポジウムの様子からも良好な研究、教育の協力関係をうかがうことができた。

< 関連 URL > <http://www.osaka-aachen.jp/index.html>

#### ④ JSPS Abend 開催

日時: 9月8日

場所: La Redoute (ボン市)

JSPS ボンセンターは例年、近隣の対応機関、大学等諸団体の長をはじめとする関係者を招待し、JSPS 及び当センターの活動報告を行うとともに、日頃の協力に対して感謝を示し、更なる交流・協力の輪を拓げるため「JSPS Abend (JSPS の夕べ)」を開催している。本年度の出席者数は 80 名程度で JSPS 本部からは小野元之理事長、田淵エルガ国際事業部参事も出席した。

開会にあたり小野理事長から、経済危機であるからこそ学術の果たすべき役割が重要となっていることや、2011 年に日独交流 150 周年を迎えるのを機に、両国の学術交流が更に発展することを期待する旨、挨拶があった。続いて、ボン市が所在するノルトライン・ヴェストファーレン州 イノベーション・学術研究省 Helmut Dockter 事務次官 (副大臣)、在ドイツ日本国大使館 岡田憲治公使、HRK (ドイツ学長会議) Dieter Lenzen 副会長、AvH (アレキサンダーフォンフンボルト財団) Enno Aufderheide 事務総長から挨拶をいただいた。

今年度は会に花を添えるため、小平センター長夫妻がハープ奏者 Daniel Noll 氏を招待し、開会に先立ちハープのソロ演奏を披露した。Noll 氏は若干 16 歳ではあるが、2008 年度ドイツ国内若手音楽家部門優勝で、出席者は本格的な演奏に対して大きな拍手を送っていた。

会の後半には、一橋大学 谷本寛治教授 (JSPS Abend 開催時はベルリン自由大学客員教授) より「Business and Society」と題する学術講演が行われた。次いで 1990 年より 20 年間 DAAD (ドイツ学術交流会) 事務総長を務め、本年 9 月をもって退任する Christian Bode 博士と、JSPS ドイツ同窓会 Heinrich Menkhaus 会長から挨拶をいただき、小平センター長からの出席者への謝辞をもって閉会した。

会は終始和やかな雰囲気に入れられ、日頃顔を合わせる機会が少ない関係機関幹部等がお互いに日独学術交流をはじめ様々なテーマで意見交換をし、相互の理解促進及び今後の協力関係を深めた。



開会の挨拶をする小野理事長



小平センター長



ハープ奏者 Daniel Noll 氏



Christian Bode DAAD 事務総長



会場の様子

#### ⑤日独交流 150 周年記念 JSPS ドイツ同窓会共催シンポジウム「トランスポートとモビリティー未来への挑戦」に出席

日時: 9 月 13 日～9 月 14 日

場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京・代々木)

2011 年は、日本－プロイセン間の修好通商条約署名後、150 周年目の節目となることから、2009 年5 月の日独首脳会談において、「日独交流 150 周年」とし、両国関係の更なる発展のための記念行事を行うことが合意された。JSPS は、これまでの事業を通して培ってきた研究者ネットワーク等を活用し、この記念行事の一環として、2010 年秋から 2011 年にかけて、日独両国における学術シンポジウム等を開催することで、両国の学術交流を更に発展させていくこととしており、そのキックオフイベントとして、JSPS ドイツ同窓会とともに、国立情報学研究センターと協力して、標記シンポジウムを開催した。JSPS ボンセンターからは小平センター長と Albers 職員が出席した。

モビリティ(Mobility)は、社会発展に必要不可欠な要素と考えられる一方、多くの国において、「交通爆発 (Transportation Explosion)」が持続可能な社会発展を逆に阻害するとの懸念がなされている。

「交通爆発」に起因する高い交通事故率、騒音や排気ガスにより高まる環境圧力及び気候変動、化石エネルギー資源の枯渇の加速などの世界的な課題の解決のためには、持続可能な社会発展を目指したモビリティ達成という観点で包括的に議論をする必要があり、本シンポジウムでは、特に未来の交通インフラに関する重要課題への対応および情報システム、セキュリティ、プライバシーを考慮した日独間における知識の共有に焦点をおいた講演が行われた。

本シンポジウムは日本開催であったにも拘わらず、JSPSドイツ同窓会員がドイツ等から40名程度出席し、同窓会員のJSPS及び日本への関心の高さが改めてうかがわれた。シンポジウム後、同窓会員は国立情報学研究センターや鉄道博物館等を見学した。

<関連URL> (日独交流150周年関連)

<http://www.de.emb-japan.go.jp/dj2011/index.html>

<http://dj150.jp/index.html>



同窓会員等シンポジウム出席者

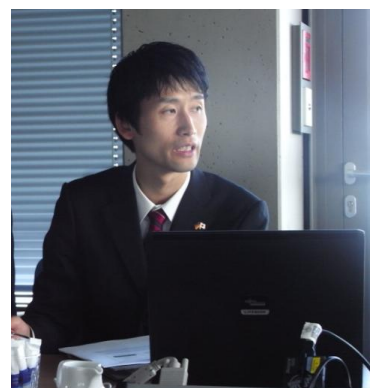
#### ⑥BMBF(ドイツ連邦教育研究省)主催ジュニアエキスパート交流プログラムに出席

日時: 9月17日

場所: BMBF(ボン市)

このプログラムは、日独の若手研究者に交流の機会を与え、科学分野における長期にわたる協力関係を構築するためにBMBF(ドイツ連邦教育研究省)がBMW(連邦経済科学技術省)と日本の外務省と協力して2003年から行っており、今年度は日本の大学や企業等の研究所に所属する10名程度の若手研究者がドイツに派遣された。

JSPSボンセンターからは中川副センター長と齋藤国際協力員が出席し、中川副センター長が若手研究者やBMBF等関係者に対してJSPSの事業紹介を行った。



JSPSの事業紹介をする中川副センター長

#### ⑦NRW州イノベーション・学術研究省、JSPS共催ワークショップ「日本とNRW州との科学技術協力」を開催

日時: 9月22日

場所: ケーニツヒ博物館(ボン市)

NRW州イノベーション・学術研究省主催(在デュッセルドルフ日本国総領事館、JSPS共催)ワークショップ「日本とNRW州との科学技術協力」に小平センター長が出席した。

開会にあたり、NRW州イノベーション・学術研究省 Helmut Dockter 事務次官(副大臣)、在デュッセルドルフ日本国総領事館 小井沼紀芳総領事、小平センター長が挨拶をした。

ドイツ側からは BMBF(連邦教育研究省) Walter Mönig 博士が EU 関連の科学技術政策について説明し、日本側からは文部科学省 匂坂克久科学技術・学術政策局国際交流官が日本の科学技術政策の概要説明を行った。その後、EUの日本を対象としうる事業紹介及びその事例紹介、日EU協定に基づき文部科学省、JSPS、JST(科学技術振興機構)等を通してドイツや欧州の機関との組み合わせでEUのプログラムに応募することができるといった紹介が行われた。

<関連 URL>

<http://www.frp.nrw.de/frp2/en/fpa/evt/aga/?v=477&lce=EN&lce=EN>

## ⑧ケルン日本文化会館、JSPS 共催シンポジウム「大学教育と学生の就職—日独比較—」開催

日時: 9月28日

場所: ケルン日本文化会館(ケルン市)

JSPSが共催した標記シンポジウムにJSPSボンセンターから中川副センター長、齋藤国際協力員、佐々木国際協力員が出席した。ケルン日本文化会館 上田浩二館長の挨拶に続き、社会学等を研究している日独研究者3名による講演が行われた。講演では、日本ではかつての終身雇用が崩れ、若者の職業観にも変化が起き、フリーターやNEETの増加といった現象が目立つようになってきているが、ドイツにもそのような現象が認められ、これに対して大学はどのような役割を演じることができるかといったことが主なテーマであった。

講演後には質疑応答時間が1時間以上設けられていたが、一般市民を中心とした聴衆からは質問が絶えることがなく、この問題に対する関心の高さがうかがわれた。ドイツでは10歳前後で大学進学組とそうでない組とに分けられることが一般的であり、日本と制度的に異なり、就職の仕方、就職感も異なることから、日本に関する質問が多く寄せられ、例えば「日本ではせっかく大学を卒業したのに、パン屋さんになりたい、といった若者もいるということだが、これはどういうことか」などといった質問があった。

## 2 会議、イベントへの出席、当センターへの来訪者等一覧

(ゴシック体は「1 2010年7～9月主な活動」に記載したもの)

### 【7月】

07月14日(水) 宮元副センター長帰国

07月29日(水) 小平センター長が日独6大学長会議に出席(於ハイデルベルク、～07月30日(金))…1-①



- 07月31日(土) 中川新副センター長着任
- 【8月】**
- 08月04日(水) Albers 職員、齋藤国際協力員がフライブルク大学サマースクール開講式に出席、11月開催渡日プログラム紹介イベントについての打ち合わせ(於フライブルク)
- 08月04日(水) 佐々木国際協力員がボン大学サマースクール開講式に出席(於ボン)
- 08月05日(木) 中川副センター長、Albers 職員、佐々木国際協力員がフンボルト財団主催フェオドア・リューネン・フェロー派遣前オリエンテーション及び帰国者情報交換会に出席(於ボン)
- 08月06日(金) 小平センター長がフンボルト財団主催フェオドア・リューネン・フェロー派遣前オリエンテーション及び帰国者情報交換会に出席(於ボン)
- 08月19日(木) 小平センター長、中川副センター長が在デュッセルドルフ日本国総領事館を訪問、小井沼総領事、大隈副領事と面会(於デュッセルドルフ)
- 08月27日(金) 小平センター長、中川副センター長、佐々木国際協力員が東京工業大学デュッセルドルフ事務所開所説明会に出席(於デュッセルドルフ)
- 08月30日(月) 小平センター長、佐々木国際協力員がブラウンシュヴァイク工科大学-静岡大学ダブルディグリープログラム調印式、第2回独日シンポジウムに出席(於ブラウンシュヴァイク、～8月31日)…1-②
- 【9月】**
- 09月01日(水) 中川副センター長がケルン日本文化会館を訪問、松本副館長と面会(於ケルン)
- 09月03日(金) 小平センター長と中川副センター長が DFG(ドイツ研究協会)を訪問、Schneider 国際部長と2011年5月開催予定の日独交流150周年記念 日独シンポジウムについて打ち合わせ(於ボン)
- 09月06日(月) 小平センター長、齋藤国際協力員がアーヘン工科大学-大阪大学日独共同大学院プログラム開設シンポジウムに出席(於アーヘン)…1-③
- 09月08日(水) JSPS 本部小野理事長、田渕国際事業部参事、栗津国際事業部専門職員が中川副センター長とケルン大学、ケルン日本文化会館を訪問(於ケルン)  
JSPS 本部田渕国際事業部参事、栗津国際事業部専門職員が来所、小平センター長と DFG(ドイツ研究協会)を訪問(於ボン)  
JSPS Abend 開催(於ボン)…1-④
- 09月13日(月) 小平センター長、Albers 職員が日独交流150周年記念 JSPSドイツ同窓会共催シンポジウム出席(於東京、～9月15日)…1-⑤
- 09月17日(金) 中川副センター長、齋藤国際協力員が BMBF(ドイツ連邦教育研究省)主催ジュニアエキスパート交流プログラムに出席(於ボン)…1-⑥
- 09月22日(水) NRW 州イノベーション・学術研究省、JSPS 共催ワークショップを開催、小平センター長が出席(於ボン)…1-⑦
- 09月28日(火) 中川副センター長が筑波大学ヨーロッパ事務センター訪問(於ボン)

**ケルン日本文化会館、JSPS 共催シンポジウム開催(於ケルン)…2-⑧**

09月30日(木) 小平センター長、中川副センター長、Schulze 職員が DAAD(ドイツ学術交流会) モニュメント除幕式出席(於ボン)

○その他来訪者数：4件(7名)

**3 2010年10月以降の予定**

- 10月05日(火) 小平センター長がフンボルト財団フェロー審査会に出席(於ボン)
- 10月07日(木) 小平センター長、中川副センター長が2011年12月開催予定のコロキウム打ち合わせのためハイデルベルク大学等を訪問(於ハイデルベルク、～10月08日(金))
- 10月18日(月) 小平センター長、中川副センター長が在ドイツ日本国大使館「在独公館長会議」に出席、2011年5月開催予定の日独交流150周年記念 日独シンポジウムについて打ち合わせ(於ベルリン)
- 10月28日(木) 小平センター長、中川副センター長が2011年2月開催コロキウム打ち合わせ及びIRTG ミニシンポジウム出席のためミュンスター大学を訪問(於ミュンスター、～10月29日(金))
- 11月05日(金) 日本の大学及び渡日プログラム紹介イベント開催(於フライブルク)
- 11月11日(木) 小平センター長、中川副センター長がJGFoS(日独先端科学シンポジウム)に出席(於ポツダム、～11月14日(日))
- 12月07日(火) ベルリン日独センター、JSPS 共催シンポジウム開催(於ベルリン、～12月08日(水))
- 12月09日(木) 中川副センター長がボッフム大学でのシンポジウム、紹介イベントに出席(於ボッフム)

**2011年**

- 02月16日(水) 第7回日独コロキウム開催(於ミュンスター)(～19日)
- 05月20日(金) 日独交流150周年記念 日独シンポジウム2011開催(於ベルリン)(～21日)

**4 対応機関幹部の交代****①DAAD 事務総長の交代**

1990年より20年間 DAAD(ドイツ学術交流会)事務総長を務めた Christian Bode 博士が2010年9月30日をもって退任し、10月1日付けで Dorothea Rüländ 博士が新しい事務総長に就任しました。2010年7月1日に DAAD 会長に就任した Sabine Kunst 博士とあわせて、DAAD 史上初の女性2頭体制となりました。



< 関連 URL >

<http://www.daad.de/portrait/struktur/praesident/14336.de.html>

<http://www.daad.de/portrait/struktur/generalsekretaer/15042.en.html>

## ②AvH 新事務総長の就任

AvH(アレキサンダーフォンフンボルト財団)事務総長は、前事務総長 Georg Schütte 博士が2009年12月15日付けでBMBF事務次官に就任して以来空席となっていました。2010年7月1日付けでEnno Aufderheide博士が新事務総長に就任しました。

< 関連 URL >

<http://www.humboldt-foundation.de/web/secretary-general.html>

<http://www.bmbf.de/en/565.php>

## 5 センター長雑感

夏には副センター長の交代があり、宮元さんに代わって中川さんが引き継いだ。中川さんには7歳の息子さんが居て、早速に近くの小学校への入学手続きをした。秋になった今は「日本の学校より面白そうだ」と元気に通学している。

日独共同大学院プログラム等で在独中の日本の大学院生と話す機会があった。「日本の院生のほうが研究熱心で水準が高い」とのこと。「ドイツの院生は5時過ぎには実験室から出るし、土曜日には出て来ない」と。これでは専門の水準では日本の院生が勝る。

ドイツの学生はアフター・ファイヴや週末には何をしているのだろうか？教養を養うとか、社会勉強をしているのでは？つまり「博士でも日本の修士卒程度だから潰しが利くのかも知れない」との見方もあるが、より柔軟な知識・能力を培っているのではないか。社会はどちらの人材を必要としているのか、ユニヴァーサル高等教育時代の大学院教育の在り方が問われている。

(小平桂一 2010年10月)

ぼんぼん時計第29号  
日本学術振興会ボン研究連絡センター  
JSPS Bonn Office  
Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)  
Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)  
Phone +49 (0) 228-375050 Fax +49 (0) 228-957777  
www.jsp-bonn.de